

# 4. 主要課題の整理

---

- ▶ 都市づくりの主要課題は、久万高原町の現状、住民アンケート調査、関係課ヒアリング結果等を踏まえて抽出

## 【久万高原町の現状】

- ・人口・世帯数
- ・産業
- ・土地利用
- ・都市施設・都市機能
- ・災害リスク など

## 【住民アンケート調査】

- ・町民アンケート結果
- ・高校生アンケート結果

## 【関係課ヒアリング結果等】

- ・関係課ヒアリング結果
- ・上位・関連計画

## 【都市づくりの主要課題】

- ①持続可能な生活圏域の確保
- ②地域の実情に応じた移動手段の維持・確保
- ③若年層の流出抑制・確保
- ④公共施設等の老朽化への対応
- ⑤増大する災害リスクへの対応
- ⑥地域資源の保全・活用
- ⑦多様な主体との連携体制の強化

## 課題① 持続可能な生活圏域の確保

### 【現状等の整理】

- ✓ 久万高原町は県下で人口密度が最も低く、人口減少は今後も続くと予測
- ✓ 日用品の買い物等の多くは旧久万町で行われているが「店舗やサービス施設の不足」や「空き店舗等の増加」が指摘
- ✓ 旧久万町では住宅需要が比較的高く、若い層からも将来住みたい場所として挙げられているほか、郊外においても支所周辺では一定の人口集積がある

### 【課題抽出の視点】

医療・介護等の担い手不足による住民の生活を支えるサービス低下が懸念

立地に必要な人口規模を下回ると、地域から生活サービス施設の撤退が進み、生活利便性が低下するおそれ

利便性が高い町中心部である久万地域の高い住宅需要や支所周辺等における一定の人口集積

今後も生活の質を維持・向上を図るため、**拠点地域に日常生活に必要な都市機能が維持・確保できる一定程度の人口密度を確保し、医療・福祉施設や商業施設、子育て支援施設等と居住地が近接した持続可能な生活圏域の確保が必要となります**

## 課題② 地域の実情に応じた移動手段の維持・確保

### 【現状等の整理】

- ✓ 高齢化は著しく進行しており、現在の交通手段の多くは自家用であるが、10年後の日常生活の移動手段については不安を感じている住民が多い
- ✓ 久万高原町の主要な公共交通ネットワークはバス路線であり、公共交通空白地域では公共交通空白有償運送が地域運営協議会により実施
- ✓ 利用者のニーズや社会情勢に見合った代替的な手段も含めた交通サービスを検討

### 【課題抽出の視点】

▶ 今後は運転免許証の自主返納等により、日常生活における移動が困難となる交通弱者も増加することが予測

▶ バス利用圏は用途地域内は概ねカバーできているものの、交通空白地帯も存在

▶ 地域住民や関係団体等と連携し、地域の実情に応じた移動手段を検討中

公共交通による移動を支えることは、地域間を結び日常生活の利便性向上に資するためだけでなく、高齢者の健康づくりの面からも重要であるため、**交通事業者、地域住民、行政等が連携し、地域の実情に応じた移動手段の維持・確保を図り**、公共交通を軸とした「歩いて暮らせるまちづくり」への転換を行うことが必要となります

## 課題③ 若年層の流出抑制・確保

### 【現状等の整理】

- ✓ 空き家数は久万地域が、空き家率は面河地域で最も多い
- ✓ 若い世代では、他の市町村から転入してきた割合が高いが転出の意向も高い
- ✓ 高校生が将来久万高原町に住みたくない理由として「希望する就職先がない」や「店舗・施設等が充実している都市で暮らしたい」等が多く挙げられている
- ✓ 町では移住者向けに「移住者住宅改修事業」や「お試し住宅」、コワーキングスペースの提供も検討
- ✓ 今後は光ファイバー回線の整備を推進

### 【課題抽出の視点】

- ▶ 店舗や働く場所等の不足による若年層の居住地としての魅力が低下
- ▶ 人口減少により今後も空き家等の低未利用地は増加することが想定
- ▶ 町では公共施設等を活用した移住・定住施策の推進
- ▶ 若い世代を中心に不満があった通信環境の改善も見込まれている

今後は新しい生活様式を踏まえ、居住誘導施策と連携した空家等の活用による地方移住やテレワーク等に対応した住む場所・働く場所の提供を行い、**若年層の流出抑制・確保を図るなど、移住・定住施策と連携した地方創生の取組を推進**する必要があります

## 課題④ 公共施設等の老朽化への対応

### 【現状等の整理】

- ✓ 公共施設が昭和50年～平成16年頃にかけて集中的に整備
- ✓ 県下において一人あたり最長である道路網（整備率56.7%）を有している
- ✓ 生産年齢人口の減少や高齢化の進行
- ✓ 老朽化が進行している町立病院では、今後建替えを含め検討中

### 【課題抽出の視点】

▶ 公共施設や都市基盤施設等の老朽化が進行し、安全性の低下や維持管理・更新費の増大が懸念

▶ 税収の低下や社会保障費の増加により、財政状況はさらに厳しくなると予測

▶ 今後の公共施設の更新等を契機とし、発生が見込まれる空き地等の低未利用地を活用する視点が必要

老朽化が進行する施設等の適切な維持管理を図りながら、真に必要な施設の整備は推進するなど、**財政制約下での効率的なストック活用に向けた都市構造への転換**を図るとともに、町立病院の建替え検討など、**公共施設の再編をまちの活性化の契機**として捉え、低未利用地を有効活用をすることが必要となります

## 課題⑤ 増大する災害リスクへの対応

### 【現状等の整理】

- ✓ 久万高原町は、標高1,000mを超える四国山地に囲まれた山間地域
- ✓ 南海トラフ巨大地震では、震度6強の発生や一部で液状化の発生が想定
- ✓ 久万川やため池の氾濫解析を実施
- ✓ 道路や下水道等では耐震化事業を推進
- ✓ SNS等を活用した災害の周知やハザードマップの配布

### 【課題抽出の視点】

▶ 土砂災害や河川氾濫、南海トラフ巨大地震等による液状化の発生等が懸念

▶ 町中心部でも様々な災害発生が懸念

▶ 町ではハード対策と併せてソフト対策も実施

近年、激甚化する災害に対応するため、引き続きハード・ソフト両面からの備えを推進するとともに、今後は災害リスクの高い地域における対策を実施するなど、**防災まちづくりの取組**が求められています  
特に、利便性が高く人口の集積を図る中心部においては、**様々な災害リスクを踏まえた方針**が必要となります

## 課題⑥ 地域資源の保全・活用

### 【現状等の整理】

- ✓ 四国カルストや面河溪等の自然環境
- ✓ 国指定史跡である上黒岩岩陰遺跡や札所である大宝寺・岩屋寺等の歴史・文化的資源
- ✓ かつて宿場町や遍路道として栄えてきた久万街道等の街並み
- ✓ スポーツ・レクリエーション施設のほか、道の駅「天空の郷さんさん」や「まちなか交流館」がある
- ✓ 若い世代からは「レジャー・娯楽機能」の充実や「イベントの多く楽しいまち」が望まれている

### 【課題抽出の視点】

▶ 豊かな自然環境や歴史・文化資源など多様な地域資源・景観資源を有している

▶ スポーツ・レクリエーション施設や観光施設は利用者数が減少傾向にあり、更なる充実や賑わいが求められている

地域に存在する多様な地域資源を保全・活用し、地域の魅力の向上を図るとともに、観光施策と連携することでまちのにぎわい創出を図ります



## 課題⑦ 多様な主体との連携体制の強化

### 【現状等の整理】

- ✓ 概ね旧小学校区を単位とした「地域運営協議会」により、住民、役場、関係団体等が一体となり、地域課題の解決や資源の活用に取り組んでいる
- ✓ 今後のまちづくりの進め方として、「住民と行政が適切な役割分担を協議し、進めていくべき」や「今後も行政運営を継続していくために、行政サービスをある程度廃止・縮小する必要がある」との意見が多い

### 【課題抽出の視点】

▶ 今後の人口減少・少子高齢化の進行により、まちづくり活動の担い手不足が懸念

▶ 人口流動やアンケート結果（日用品以外の買い物など）から近隣自治体とのつながりがある

今後も地域活動の担い手として「**地域運営協議会**」の**設置支援や連携強化**を図るとともに、移住者や地域外の人材も含め、地域内外の担い手を確保していくことが求められます

また、効率的かつ効果的な公共サービスを提供するため、近隣自治体間との連携を更に深め、**広域的な生活圏に必要となるサービスの提供**を図る必要があります

▶ 都市計画マスタープラン・立地適正化計画で主要課題を踏まえた方針を設定し、具体的な施策等について記載

